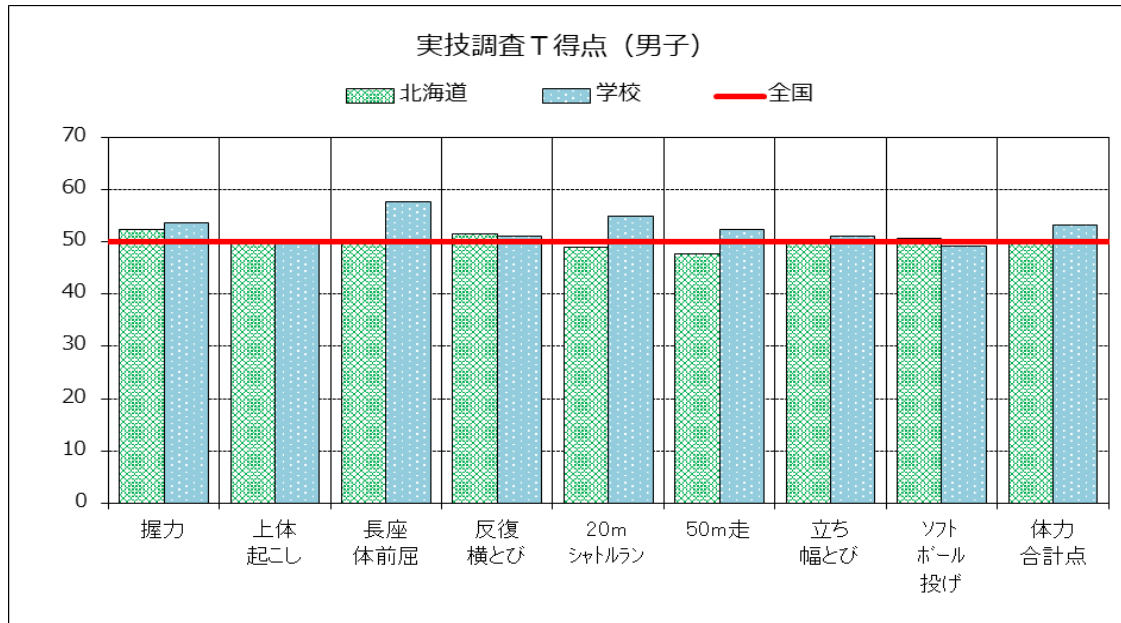


令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果と分析

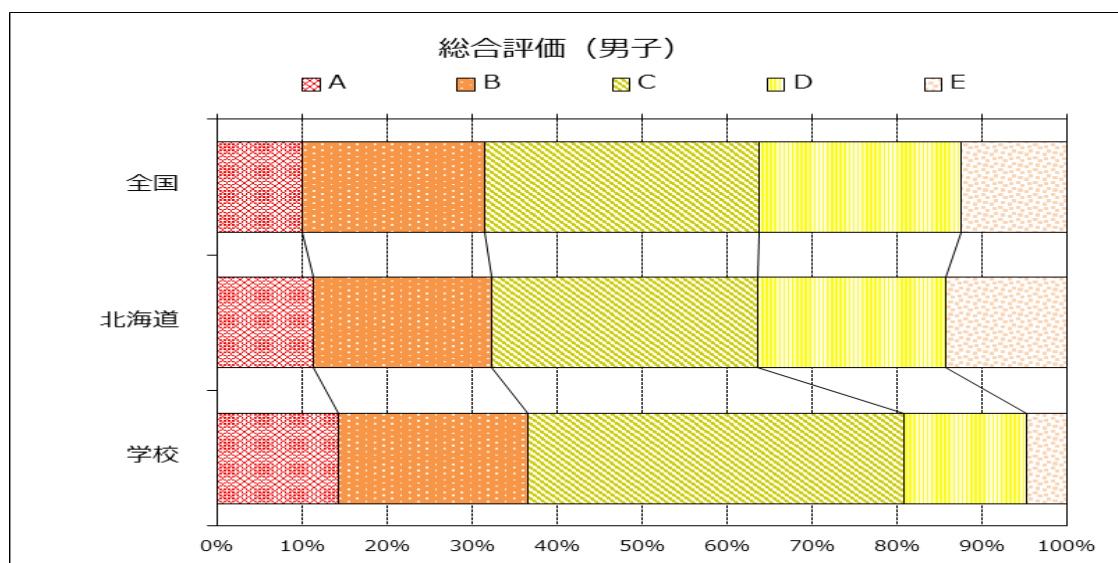
今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果と分析についてご報告いたします。

1 本校第5学年の結果について

(1) 男子の結果

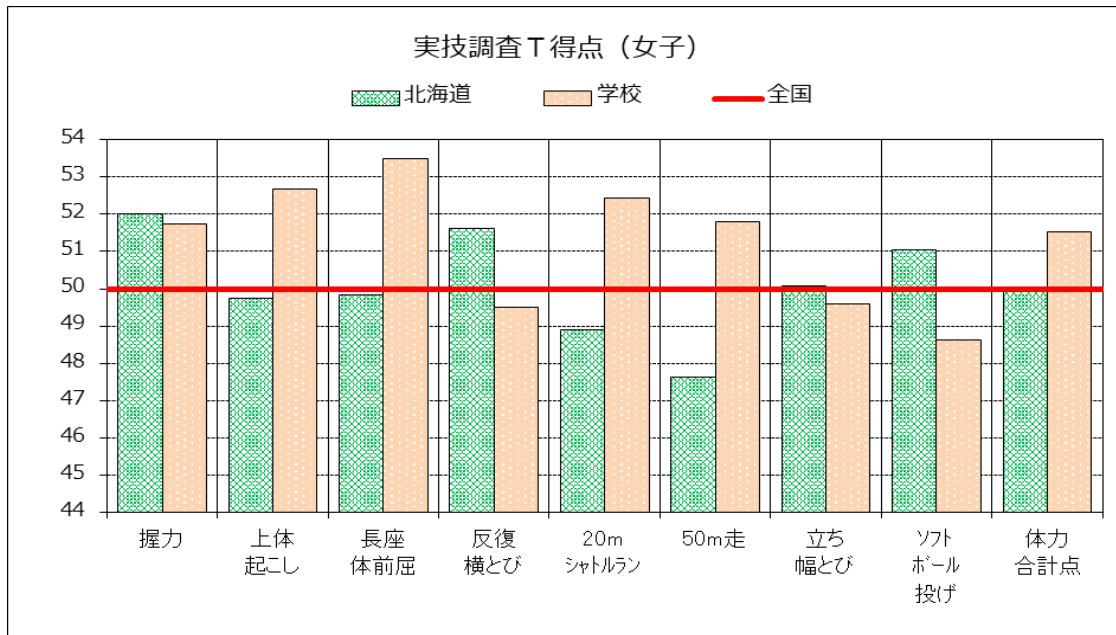


男子の結果から、体力合計は全国の平均値より約3ポイント高い結果となっています。特に「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」において高い得点をあげています。「ソフトボール投げ」は、全国水準よりも0.9ポイント低くなっており、伸びしろが見られます。

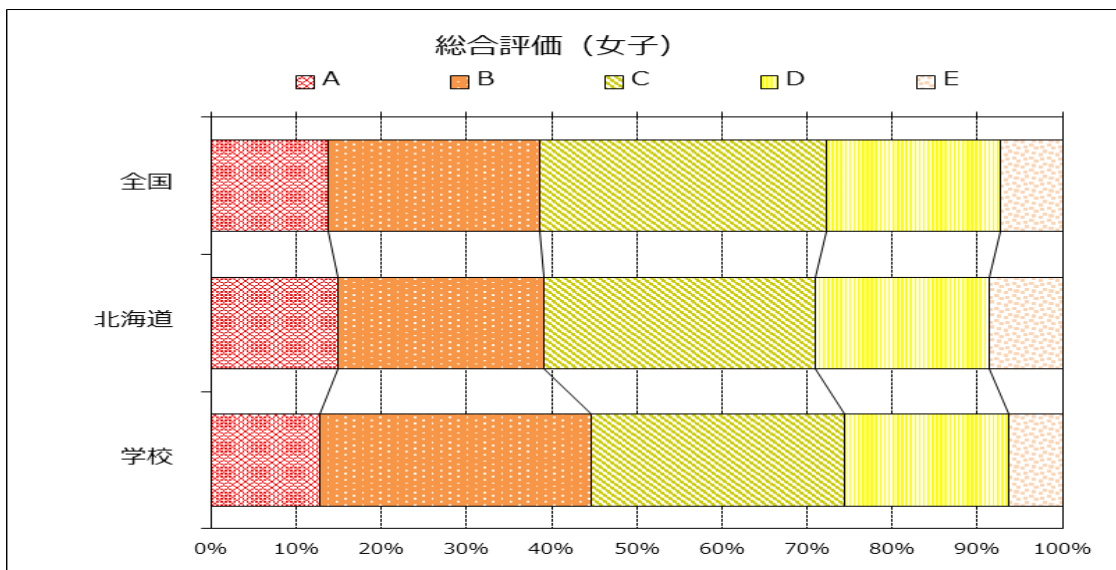


総合評価では、AB値－DE値が17.4となり、全国（－4.6）と比べて高く、運動能力が高いことがわかります。

(2) 女子の結果



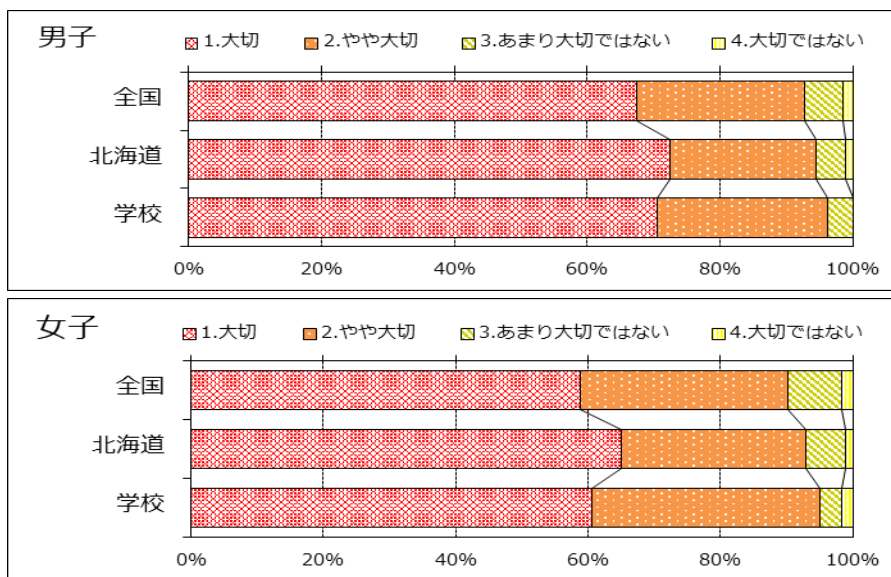
女子の結果から、体力合計は全国と比較して約 1.5 ポイント上回っていました。「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」において高い得点になっています。一方で、「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」で全国水準よりも低くなっており、伸びしろが見られます。



総合評価では、AB値－DE値が 19.1 となり、全国（11）と比べて約 9 ポイント高く、運動能力が高いことがわかります。

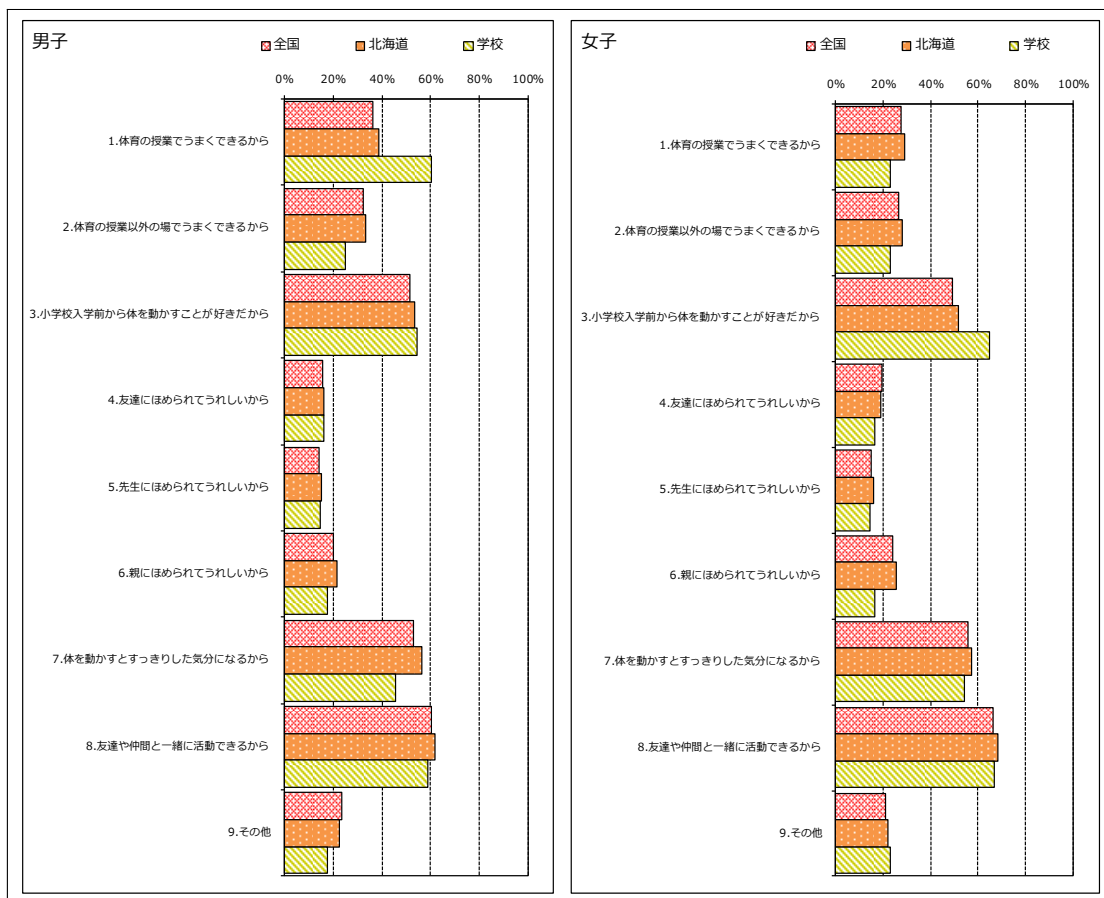
## 2 質問紙の結果から

(1) あなたにとって運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切なものですか。



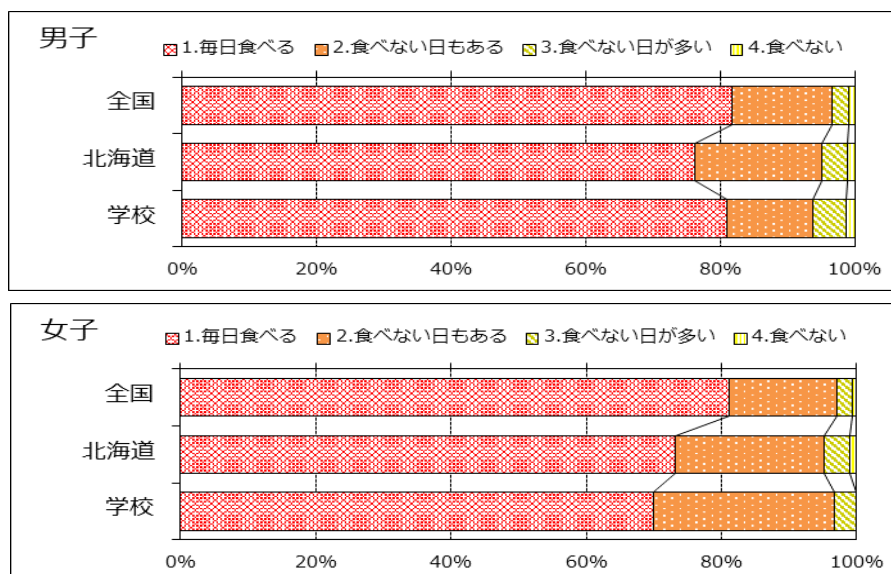
男女共に、全国水準を上回り、運動やスポーツを大切だと捉えている子が多いです。本校では、男子の方が運動を大切だと思う割合が多いようです。

(2) (運動が好きと回答した人へ) 好きな理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。



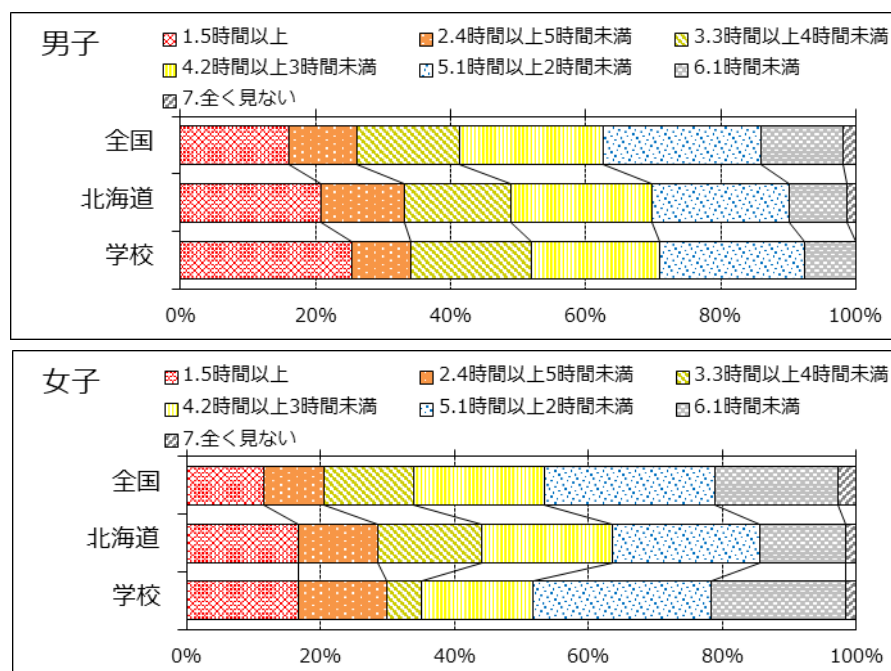
男女共に、入学以前から体を動かすのが好きだという児童の割合が高いようです。それに加え、「体を動かすとすっきりした気分になる」「友達や仲間と一緒に活動できるから」という理由も多いようです。

(3) 朝食は毎日食べますか。(学校が休みの日もふくめます)



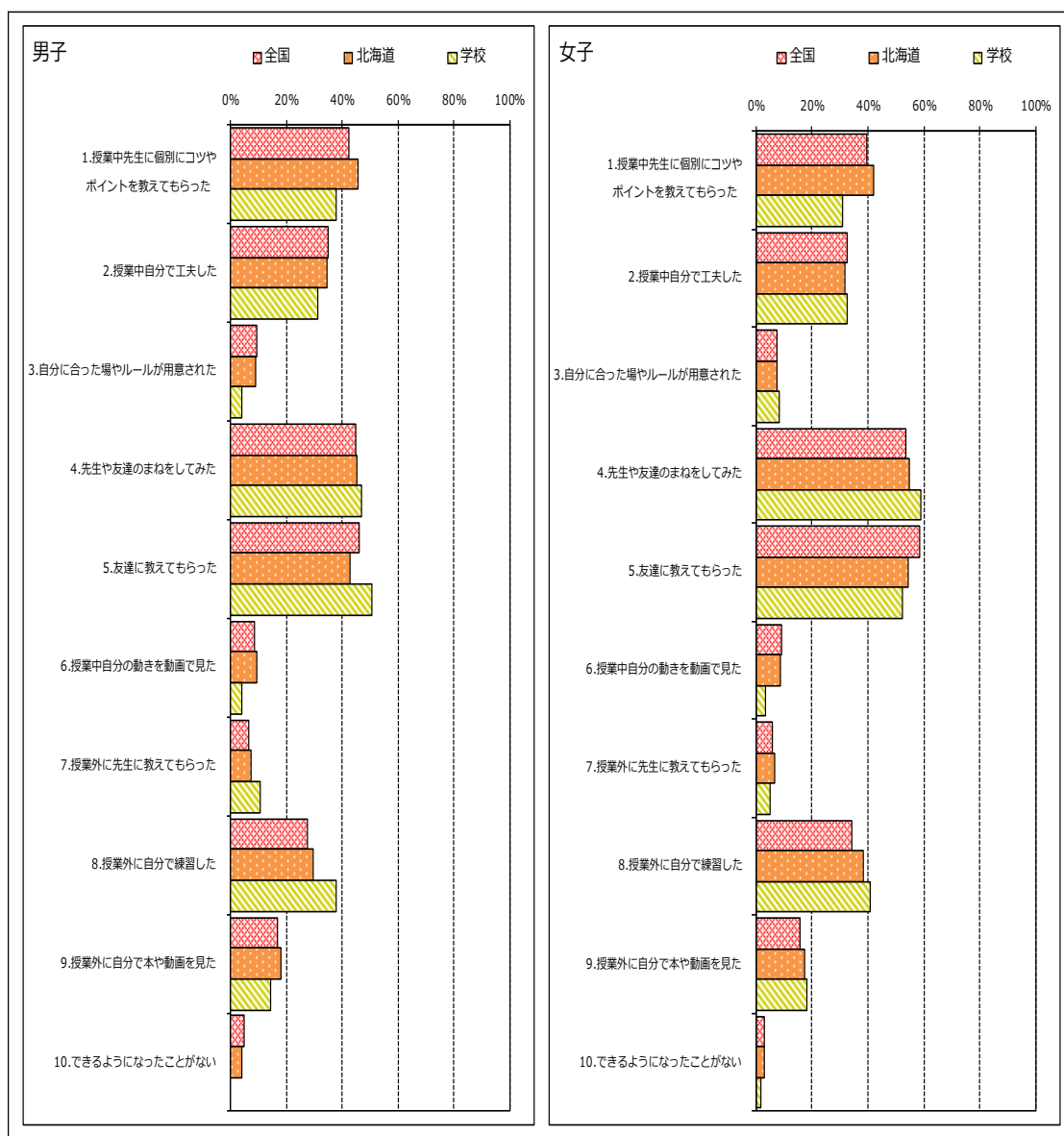
男女を比較したときに、女子の方が朝食を摂らない傾向があります。全国的にもこのような傾向があるようです。

(4) 平日 (月～金曜日) について聞きます。学校以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



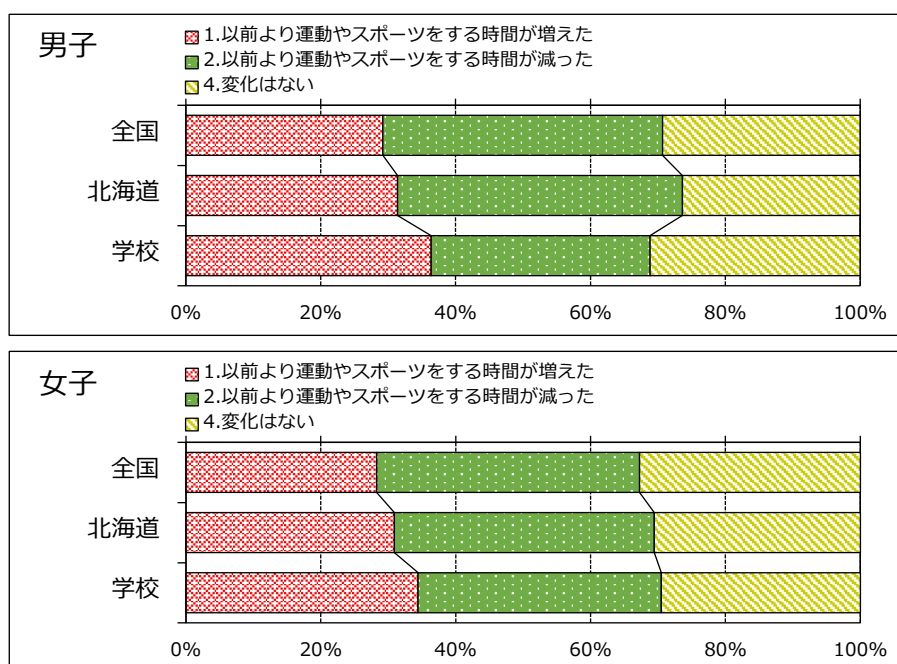
本校では、男子では約半数が3時間以上、女子では約3割が3時間以上、学校以外でメディアに触れています。また、半数以上の男女が、2時間以上メディアに触れていることがわかります。コロナ禍で外で遊ぶ機会が制限された影響の一つだと考えられます。

(5) これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか。当てはまるものをすべて選んでください。



男女共に、「先生や友達のまねをしてみた」「友達に教えてもらった」のポイントが高くなっています。「教え合う」ことが、大事になってくるかと思います。

(6) 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在とを比較して、あなたの運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツへの取組はどのように変化しましたか。



男女共に、半数以上が「増えた」「変化はない」という結果になり、「減った」という割合は約3割にとどまっています。コロナ禍においても、運動やスポーツをする時間は増加している状況が見られます。

1週間の総運動時間				
男子	0分	1～59分	60～419分	420分～
全国	4.0%	4.8%	43.2%	48.0%
北海道	4.2%	5.5%	36.9%	53.4%
学校	5.3%	5.3%	38.2%	51.3%
女子	0分	1～59分	60～419分	420分～
全国	5.1%	9.4%	57.2%	28.3%
北海道	4.7%	9.9%	48.5%	36.9%
学校	11.5%	8.2%	50.8%	29.5%

男女共に、1週間の総運動時間が0分の割合が、全国よりも多いようです。

前の質問と合わせると、コロナ禍の影響で運動時間が減った結果、0分になってしまった児童が出てきたと考えられます。また、「変化はない」とした児童の中で、元々が0分であった児童もあり、これらが合わさった結果、運動をしなくなった児童の割合が増えたと考えられます。

### 3 結果からの考察

本校5年生児童は、男女共に、全国と比べて運動能力が高いという結果でした。男子は、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」が高く、「ソフトボール投げ」が低いという結果でした。女子は、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」が高く、「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」低いという結果でした。

朝食について、男子が約8割、女子が約7割が毎日摂ると答え、女子に朝食を毎朝摂らない傾向がありました。全国的に毎日朝食を摂らない児童が増加傾向にあり、特に女子が多いです。また、メディアに触れる時間（スクリーンタイム）について、男子の約半数、女子の約3割が3時間以上メディアに触れており、2時間以上にまで広げると、半数以上の男女児童があてはまりました。これは全国的に長時間化傾向が見られ、長くなるほど、体力合計点が低くなるのがこれまでの調査でわかっています。

北海道教育委員会が推し進めている「学力・体力向上運動」では、学習以外でメディアに触れる時間を、1日につき2時間以内にするを目標にし、使い方や使用時間について、家庭で約束を決めることを求めています。今回の体力テストでは、全国的に運動する時間が減り、メディアに触れる時間が増えたという傾向が見られますので、普段の生活から意識して生活できるようにしていく指導や、家庭の協力を得ていく必要があると考えられます。

体力調査の種目の結果から、全体として「ソフトボール投げ」「反復横とび」に課題があり、児童が取り組むことができる機会を増やしていきたいと思えます。

そのために、

#### ① 普段の生活や体育の授業に取り入れる

準備運動の一つに、「反復横とび」を取り入れるなど、練習回数を増やします。また、「ロープスロー」というロープにくくり付けたボールを投げて的に当てる場を設定するなど、安全面に配慮しつつ、中休みや昼休みに利用できる、「投げる」能力を高める場を導入します。



【ロープスローの様子】

#### ② 自分の成長を知る機会をつくる

全学年の体力調査の記録を配付し、以前の自分の記録と比べられるようにして、意欲の向上を図ります。

#### ③ 定期的なスポーツイベントの設置

これまで、シャトルランを行ったり、スポーツ健康委員会でも鬼ごっこや持久走などのイベントを企画したりしてきました。継続的な取組が体力向上に寄与しますので、これからも定期的に計画をしていきます。

#### ④ タブレットの活用

「先生や友達のマねをしてみた」「友達に教えてもらった」ということによって、できることが増えたという結果がありました。子ども同士で動画を撮影して、動きを学び合ったり、「NHK for School・はりきり体育ノ介」など良質な動画コンテンツなどを見たりすることで、自ら改善していける環境を整備し、運動やスポーツへの意欲をもたせます。

上記4点の取組を通して、子どもたちの体力向上を図りたいと思えます。